

普及センター活動紹介【課題に取り組む】

フロストシーディング！！ どのくらい出芽するかを調査しています

課題の背景

根室市和田地域で重点活動を行っており、その一つに良質粗飼料生産の推進を掲げています。ギシギシ対策の除草剤散布や草地更新後の掃除刈りなど、良好な植生維持のための取組が成果を上げ、草地管理への関心が高まっています（写真3）。

活動内容

それに伴って、和田地域だけでなく根室市の草地管理に関心が高い農場では、種苗会社の働きかけもあり、フロストシーディングを施工しました（写真4）。

フロストシーディングは種子の発芽が抑えられる初冬季には播する技術ですが、施工期間が限られるためタイミングを図ることが難しい技術とも言えます。そのため、施工の状態を確認し、施工翌年にどのくらいの種子が出芽するか調査することで、フロストシーディングの効果を検証しているところです。

草地更新費用は年々上昇しています。追播技術の安定化により草地を長く利用できるように今後も支援していきます。検証結果については続報をお待ちください！

本所地域第一係
根室市の取組



写真3 農業者と草地更新スケジュールについて打合せ



写真4 シードマチックでのフロストシーディング施工

難防除事業を活用しながら飼料用とうもろこしと 草地の中長期の作付け計画を樹立！

課題の背景

上春別は1戸当たりのほ場面積が少ない地域です。重点対象農家6戸では、生乳生産性向上に向けて、草地難防除雑草駆除技術実証事業（難防除事業）を利用して「良質な粗飼料の確保」に取り組んでいます。

そこで、①飼料用とうもろこしの栽培を絡めた牧草地の計画的な更新、②鳥獣害被害を抑えるため、飼料用とうもろこしを団地化することなどが求められています（写真5）。

活動内容

TMRセンター加入の5戸で5年間、1戸で10年間の作付け計画の樹立を支援しました（写真6）。

作付け計画ポイント

- ・ 牧草と飼料用とうもろこしの作付け比率を検討
- ・ 鹿の食害を回避するため、飼料用とうもろこしほ場の団地化（電気牧柵も利用）
- ・ 家畜ふん尿の有効利用のため、牛舎の近くに飼料用とうもろこしほ場を配置

本所地域第二係
別海町上春別地域の取組



写真5 ドローンで鹿食害を確認（飼料用とうもろこし）



写真6 作付け計画の検討